

湯河原寮の開設



中央大学健康保険組合が設置認可されたのは、1953（昭和28）年5月のことである。保養施設は組合員である教職員の温泉療養および健康の保持増進を図る事業の一環として開設したものである。

はじめは、強羅ホテルと1年契約を結び、同年7月熱海に保養所（熱海寮）が開かれた。熱海寮は温泉寮として教職員の間で好評を博していたようだが詳しいことはわからない。翌年6月、この契約が切れる直前、本学はあらたに教職員専用の保養施設として湯河原（熱海市）に、敷地653坪、建物延べ65坪の別荘を購入し、7月に「中央大学湯河原寮」として開設した。これが、本学最初の健康保険組合直営保養施設である。

開設当初の湯河原寮『案内』によると、「温泉家屋瓦葺平家1棟（8畳・3間、6畳・1間、4畳半・1間、洋間・2間）、温泉風呂（自家用噴出完備、但し木曜日は当分休場）、庭園約600坪（湯河原随一の定評あり）」となっており、「四囲静閑、東方にまなづるの海を眺め絶景の風光たり」と紹介されている。

宿泊料金は、1人1泊3食付きでA（700円）、B（500円）、C（400円）の3種の利用券が用意されていた。寮が開設された7月中の利用券発行数は、A券46枚、B券23枚、C券17枚であり、合計86枚が発行されるという盛況さであった。